

# 公 示

(プロポーザル方式)

独立行政法人国際協力機構筑波センター（JICA 筑波）が、2021 年度 1 回、2022 年度及び 2023 年度に各 2 回（計 5 回）（予定）の研修委託業務契約を実施する予定の案件について、別紙のとおり公示します。なお、本件公示に関する問い合わせは、JICA 筑波 研修業務課（電話：029-838-1744、担当：川越結、内田冴美）宛にお願いします。

2021 年 6 月 1 日

独立行政法人国際協力機構  
筑波センター 契約担当役  
所長 渡邊 健

## 1. 業務概要

- (1) 業務名：2021-2023 年度課題別研修「南アジア地域・マルチセクターで取り組む栄養改善」コース研修委託業務
- (2) 業務場所：JICA 筑波（茨城県つくば市高野台 3-6）
- (3) 業務内容：研修委託業務概要（別添）のとおり
- (4) 業務期間：2021 年度 1 回、2022 年度及び 2023 年度各 2 回（計 5 回）（予定）
- (5) 2021 年度コースの期間は次のとおりです。なお 2022 年度以降のコース期間については後日決定します。
  - 1) 事前プログラム期間：2021 年 9 月 27 日～2021 年 10 月 29 日
  - 2) 遠隔プログラム期間：2021 年 11 月 1 日～2021 年 11 月 26 日
- (6) 契約履行期間（予定）：2021 年 8 月 24 日～2022 年 2 月 14 日  
（事前準備・事後整理期間を含みます。）

## 2. 業務受託上の条件

本研修委託業務契約は、2021 年度～2023 年度までに実施する計 5 回の研修コース全体を対象とします。しかしながら契約については、年度毎に 3 回に分割して締結し、毎年 6 月頃から翌 2 月頃まで（予定）を契約履行期間とします。第 1 年次分の研修は、遠隔（オンライン等）での実施を予定しています。第 2 年次以降の研修についても、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大等の世界情勢に鑑み、別途実施形態を検討します。

第 1 年次は上記のとおり 2021 年 8 月頃から 2022 年 2 月頃までを契約履行期間とします。第 2 年次及び第 3 年次はそれぞれ研修実施期間の前後にか月間を目安に契約を締結します（ただし、研修対象国の状況など予期しない外部条件の変化が生じた場合を除きます）。なお、金額や数量、研修内容の変更等が必要となった場合は、発注者・受注者で契約条件の変更について協議し決定します。

## 3. 競争参加資格

この企画競争に参加を希望する者は、競争参加資格を有することを証明するため、当機構の確認を受けなければなりません。なお、共同企業体を形成して競争に参加しようとする場合は、共同企業体の代表者及び構成員全員が、競争参加資格を有する必要があります。

具体的には、競争参加の資格要件を以下のとおり設定します。

- (1) 公示日において令和 01・02・03 年度全省庁統一資格若しくは平成 31・32・33 年度全省庁統一資格の「役務の提供等」の「A」又は「B」又は「C」又は「D」の等級に格付けされ、競争参加資格を有する者（以下「全省庁統一資格保有者」という。）であること。
- (2) 会社更生法（平成 14 年法律第 154 号）又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、競争に参加する資格がありません。

- (3) 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」(平成 20 年 10 月 1 日規程(調)第 42 号)に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていないこと。具体的には、以下のとおり取り扱います。
- ア. プロポーザルの提出締切日が資格停止期間中の場合、プロポーザルを無効とします。
  - イ. 資格停止期間中に公示され、プロポーザルの提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、プロポーザルを受付けます。
  - ウ. 資格停止期間前に、契約交渉相手方として通知されている場合は、当該相手方との契約手続きを進めます。
  - エ. 契約交渉相手方として通知される前に資格停止期間が始まる案件のプロポーザルは無効とします。
- (4) 日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人であること。
- (5) 競争から反社会的勢力を排除するため、競争に参加しようとする者(以下、「応募者」という。)は、以下のいずれにも該当しないこと、および、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約して頂きます。具体的には、競争参加資格確認申請書の提出をもって、誓約したものとします。
- なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、競争参加資格を無効とします。
- ア. 応募者の役員等(応募者が個人である場合にはその者を、応募者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。)が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等(これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成 16 年 10 月 25 日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という。)である。
  - イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成 3 年法律第 77 号)第 2 条第 6 号に規定する暴力団員でなくなった日から 5 年を経過しないものである。
  - ウ. 反社会的勢力が応募者の経営に実質的に関与している。
  - エ. 応募者又は応募者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
  - オ. 応募者又は応募者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
  - カ. 応募者又は応募者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
  - キ. 応募者又は応募者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
  - ク. その他、応募者が東京都暴力団排除条例(平成 23 年東京都条例第 54 号)又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

#### 4. 競争参加資格の確認等

本競争の参加希望者は、参加の意思及び上記3.に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に従い、契約担当役から競争参加資格の有無について確認を受けなければなりません。なお、期限までに必要な書類を提出しない者及び競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができません。

\* 提出書類について：各種フォーマットは下記（参考）にある URL から入手下さい。

##### (1) 全省庁統一資格者である者

###### 1) 競争参加資格確認申請書

注：フォーマットの「本部契約担当役 理事」を「JICA 筑波センター契約担当役 所長」とし、「(国契-〇〇-〇〇〇)」は削除下さい。

###### 2) 全省庁統一資格審査結果通知書（写）

###### 3) 誓約書（様式1）

(参考)・国際協力機構ホームページ <https://www.jica.go.jp/index.html>

・競争参加資格確認申請書

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>

#### 5. プロポーザル方式による選定手続き

契約相手方の選定については、契約担当役が競争参加者資格確認を通知した者からプロポーザルの提出を受け、その審査結果を基に契約交渉順位を決定し、選定します。

##### (1) 競争参加資格確認申請書

提出期限 : 2021年6月18日（金）

（郵送の場合は当日必着、持参の場合は当日午後4時まで。なお、受付は土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前10時から午後4時≪午後0時30分から午後1時30分を除きます≫）

提出部数 : 正1部

提出場所 : JICA 筑波

##### (2) 今後の選定スケジュール（予定）

1) 競争参加資格確認結果の通知：2021年6月23日（水）

2) 企画競争説明書交付：2021年6月24日（木）（電子データで配布します。同日に電子データが届かない場合は、下記担当者連絡先までお知らせ下さい。）

3) 企画競争説明書に係る質問

① 質問期間：2021年6月25日（木）～2021年7月6日（火）午後4時

② 提出先：下記（8）連絡先参照

③ 提出方法：下記リンク上の質問書（「プロポーザル方式（国内向け物品・役

務等)」様式 質問書)に質問事項を記入の上、メールまたは FAX にてご連絡下さい。

リンク :

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>

- ④ 質問に対する回答 : 2021 年 7 月 13 日 (火) までに応募者全員に回答します。
- ⑤ 公正性、公平性等確保の観点から、電話及び口頭でのご質問は原則としてお断りしています。ご了承下さい。

#### 4) プロポーザル提出期限及び場所

- ① 提出期限 : 2021 年 7 月 21 日 (水)  
(郵送の場合は当日必着、持参の場合は当日午後 4 時まで。なお、受付は土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前 10 時から午後 4 時≪午後 0 時 30 分から午後 1 時 30 分を除きます≫)
- ② 提出場所 : JICA 筑波

#### (3) プロポーザルの無効

次の各号のいずれかに該当するプロポーザルは無効とします。

- 1) 提出期限後にプロポーザルが提出されたとき。
- 2) 提出されたプロポーザルに記名押印がないとき。
- 3) 同一法人等から 2 種類以上のプロポーザルが提出されたとき。
- 4) 既に受注している案件、契約交渉中の案件及び選定結果未通知の案件と業務期間が重なって同一の業務総括者等人員の配置が計画されているとき。
- 5) 虚偽の内容が記載されているとき。
- 6) 機構が定める「契約競争参加資格者指名停止等措置細則」(平成 16 年細 則(調)第 18 号)に基づく指名停止を受けている期間中である法人等からプロポーザルが提出されたとき(なお、プロポーザルの提出後であっても審査結果の通知前に指名停止を受けたものを含みます。)
- 7) 前号に掲げるほか、本指示書又は独立行政法人国際協力機構会計関連規程に違反したとき。

#### (4) プロポーザルの評価及び契約交渉順位の決定方法

##### 1) プロポーザルの評価基準

本件業務では、法人としての経験能力等、研修委託業務の実施方針等、業務総括者の経験・能力等からプロポーザルの評価を行います。プロポーザルの評価の結果、プロポーザルを提出した法人等の評点について第 1 順位と第 2 順位以下との差が僅少である場合に限り、プロポーザルと共に提出される見積価格とその算出根拠を加味して交渉順位を決定します。

##### 2) 評価結果の通知

提出されたプロポーザルは当機構で評価の上、交渉順位については、2021 年 8

月3日（火）までに、プロポーザルを提出した全者に対し通知します（予定）。

（5）契約交渉

- 1) プロポーザル評価結果に基づき契約交渉順位1位の法人等から契約交渉を行います。
- 2) 契約交渉の場所および日程については評価結果とあわせて通知します。
- 3) 契約交渉に当たっては、当方が提示する本指示書および提案いただいた内容に基づき、最終的な委託業務内容を協議します。
- 4) 当機構として契約金額（単価）の妥当性を確認するため、見積書金額の詳細内容や具体的な根拠資料を提供いただき、各業務に係る経費を精査します。

（6）最終見積書の提出、契約書作成および締結

- 1) 上記（5）により合意に至ったものは、速やかに合意された金額の最終見積書を提出するものとします。
- 2) 別添「研修委託業務概要」及び下記サイトに掲載の各種様式を参照し、速やかに契約書を作成し締結するものとします。  
[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr\\_japan/guideline.html](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html)
- 3) 契約金額については、見積金額の内訳等の文書に基づき、両者協議・確認して設定します。

（7）プロポーザルの取扱いについて

- 1) JICA 筑波が企画競争説明書配布時に貸与した資料は、本件業務のプロポーザルを作成するためのみに使用することとし、他の目的のために転用等使用しないで下さい。また、プロポーザル提出時に必ず返却して下さい。
- 2) プロポーザル及び見積書の作成、提出に対しては、報酬を支払いません。
- 3) プロポーザル及び見積書は、本件業務の契約交渉順位決定、契約交渉および契約締結後の契約管理を行う目的以外に使用しません。ただし、法令等に従い他機関に提供することがあります。
- 4) 不採用となったプロポーザル（正）及び見積書（正）は、プロポーザルを提出した法人等の要望があれば返却しますので、返却を希望する場合は、選定結果通知後2週間以内にお申し出下さい。

（8）担当者連絡先

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6

JICA 筑波 研修業務課 担当者：川越結、内田冴美

TEL 029-838-1744 FAX 029-838-1119

E-mail [Kawagoe.Yui@jica.go.jp](mailto:Kawagoe.Yui@jica.go.jp) [Uchida.Saemi2@jica.go.jp](mailto:Uchida.Saemi2@jica.go.jp)

6. 競争参加資格がないと認めた者およびプロポーザルの審査の結果不合格の通知を受け

## た者に対する理由の説明

- (1) 競争参加資格がないと認められた者またはプロポーザルの審査の結果不合格の通知を受けた者は、当機構に対してその理由について、書面（様式は任意）により説明を求めることができます。
  - 1) 競争参加資格がないと認めた者：2021年6月28日（月）正午までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前10時から午後5時（午後0時30分から午後1時30分を除く）。最終日は正午期限ですのでご注意ください。
  - 2) プロポーザルの審査の結果不合格の通知を受けた者：2021年8月9日（月）正午までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前10時から午後5時（午後0時30分から午後1時30分を除く）。最終日は正午期限ですのでご注意ください。
  - 3) 提出場所：上記5（8）参照
  - 4) 提出方法：書面の提出は、提出場所へ持参、または郵送
- (2) 当機構は、説明を求めた者に対し、面談形式（または書面）により、回答します。

## 7. その他

- (1) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本国通貨に限ります。
- (2) 契約保証金：免除
- (3) 契約書作成の要否：要
- (4) 共同企業体の結成：認める。
- (5) 委託業務の詳細は研修委託業務概要（別添）によることとします。
- (6) 契約経費：当機構が定める研修実施経費基準に基づき、研修委託にかかる諸経費（業務人件費、管理費）、その他研修実施に必要な直接経費（講師謝金、資機材費等）を支払います。
- (7) 見積書作成にあたっては、企画競争説明書および国際協力機構ホームページの「研修委託契約における見積書作成マニュアル」を参考にしてください。  
[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr\\_japan/ku57pq00001zekwt-att/guideline\\_estimate.pdf](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/ku57pq00001zekwt-att/guideline_estimate.pdf)
- (8) 国際協力機構の契約競争関連規程は、国際協力機構ホームページの「調達情報」（アドレス <https://www.jica.go.jp/announce/index.html>）にて公開中です。

### (注) 情報の公開について

「公共調達の適正化に係る契約情報の公表について」（下記リンク）のとおり、機構の契約に関する情報を機構ウェブサイトで公表いたします。

なお、本競争への参加を以て、選定結果情報、契約情報（法人、個人、団体名（共同企業体を結成する場合は共同企業体の構成員も同様）を含む）の公表に同意したものとみなします。

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html>

また、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）に基づき、行政改革推進本部事務局から、独立行政法人が密接な関係にあると考え

られる法人と契約する際には、当該法人への再就職の状況や取引高などの情報を公表することが求められています。つきましては、当機構においてもこれに基づき関連情報を当機構のホームページで公表することとしますので、必要な情報の当方への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくようご理解とご協力をお願いいたします。

(イ) 公表の対象となる契約

当機構との間に締結する契約のうち、次に掲げるものを除きます。

- i) 当機構の行為を秘密にする必要があるとき
- ii) 予定価格が次の基準額を超えない契約
  - ii-① 工事又は製造の請負の場合、250万円
  - ii-② 財産の買入れの場合、160万円
  - ii-③ 物件の借入れの場合、80万円
  - ii-④ 上記以外の場合、100万円
- iii) 光熱水料、燃料費及び通信費の支出に係る契約

(ロ) 公表の対象となる契約相手方

次のいずれにも該当する契約相手方

ア. 当該契約の締結日において、当機構の役員経験者が再就職していること又は当機構の課長相当職以上経験者が役員等（※）として再就職していること。

※役員等とは、役員のほか、相談役、顧問その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言することなどにより影響力を与え得ると認められる者を含みます。

イ. 当機構との間の取引高が、総売上又は事業収入の3分の1以上を占めていること（総売上高又は事業収入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げられた額によることとし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実績によることとします）。

(ハ) 公表する情報

契約ごとに、契約名称及び契約締結日、契約相手方の氏名・住所、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表します。

- i) 当機構の役員経験者又は当該契約相手方の役員等として再就職している当機構課長相当職以上経験者の氏名、契約相手方での現在の職名及び当機構における最終職名
- ii) 契約相手方の直近3ヵ年の財務諸表における当機構との間の取引高
- iii) 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引割合が、次の区分のいずれかに該当する旨
  - ・ 3分の1以上2分の1未満
  - ・ 2分の1以上3分の2未満
  - ・ 3分の2以上



iv) 一者応札又は応募である場合はその旨

(二) 公表の時期

契約締結日以降、所定の日数以内

(ホ) 情報提供の方法

契約締結時に所定の様式を提出していただきますので、ご協力をお願いします。

以上

## 2021 -2023 年度課題別研修「南アジア地域・マルチセクターで取り組む栄養改善」コース研修委託業務概要

### 1. コース概要

(1) 研修コース名：課題別研修「南アジア地域・マルチセクターで取り組む栄養改善」コース

(2) 遠隔研修期間：(2021 年度) 2021 年 11 月 1 日 (月) ～ 2021 年 11 月 26 日 (金)

(3) 研修の背景：

世界では毎年数百万人の子どもが重度の急性栄養不良により命の危険に晒されている。子どもの栄養不良は、死亡の原因のみならず、知能や身体の発達の遅れや、ひいては将来の労働の担い手の減少にもつながり、国にとっても人的、経済的に大きな損失となる。また、これにより多子多産のサイクルを生み出す一因となり、母親の健康にも大きな負の影響をもたらす。

現在 1 億 4,900 万人の子どもが発育阻害（世界の 5 歳未満児人口の 21.9%）で、その 61.2%が南アジアで暮らしている。（UNICEF, WHO, WB 合同子ども栄養不良推計 2019 年版）栄養不良には、低栄養（発育阻害、消耗症等）と過栄養（過体重）等の形態があるが、南アジアでは急速な経済発展の影響もあり低栄養問題に加え、過栄養がもたらす課題（成人病患者の増加に伴う医療費の財政圧迫等）を含む、二重負荷を抱える国が増えている。

これまで国際社会は 2014 年の第二回栄養会議（ICN2:Second International Conference on Nutrition）における栄養改善行動計画の採択、SDGs2(飢餓・栄養)および 3(健康)で 3つの栄養に関する指標設定、これらを踏まえた国連機関の 10年間の行動計画、マルチステークホルダーによる栄養問題解決のための枠組み（Scaling Up Nutrition: SUN）等、様々なコミットメントや取り組みにて栄養改善に取り組んできた。しかし、栄養改善には、保健、教育、衛生、食料、ジェンダー等、マルチセクトラルな介入が必須とされながら、縦割り行政等の制約などもあり、その成果が十分発揮されているとは言い難い状況にある。とりわけ南アジア地域は、栄養問題の指標である GHI（Global Hunger Index/2019 版）において、アフガニスタン（108 位）、インド（102 位）、パキスタン（94 位）、バングラデシュ（88 位）、ネパール（73 位）と殆どの国が下位に位置している。特に消耗症と発育阻害の割合が高く、その要因として、たんぱく質や鉄分などの特定栄養素の不足や食生活の単一化並びに完全母乳率の低さ、さらに衛生やジェンダーなどが挙げられる。

こうした状況を踏まえ、JICA 筑波は生活改善アプローチをはじめとした日本の栄養改善に係るマルチセクトラルな取り組みの経験を生かし、上記の課題解決に資することを目的として本コースを実施する。

(4) 使用言語：

英語

通訳が必要な場合には、JICA が配置する研修監理員がこれを行う。

(5) 定員(予定) :

2021 年度 12 名

2022・2023 年度 各回 24 名 (いずれも応募状況・選考過程により増減あり)

(6) 割当国(予定) :

アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、ネパール、パキスタン、スリランカ (7 か国)

なお、1 回の研修につき 2~3 か国の参加を想定している。

(7) 対象組織 :

栄養改善事業を行う中央・地方政府機関

マルチセクターでの取り組みを念頭に、農業だけでなく保健、教育関係者も対象とする。

(8) 研修員資格要件 :

1) 職位 : 栄養改善に関わる中央・地方政府機関の行政官 (政策立案に携わる者)

2) 職務経験 : 当該分野で5年以上の経験があること

3) 語学 : 研修で使用する言語について十分な能力があること

4) 学歴 : 大学卒業または同等の学力を有する者

5) 年齢 : 30歳~60歳であることが望ましい

6) 健康 : 心身ともに健康な者

7) 母子の健康・安全を優先させるため、妊娠中の者は原則受け入れをしない

8) JICA技術協力プロジェクトもしくは世銀プロジェクト、栄養改善に係る調整を担う機関に属する者が望ましい。

(9) 上位目標 :

研修員の所属組織がマルチセクター・アプローチによる栄養改善プログラムを推進する。

(10) 案件目標 :

研修員がマルチセクター・アプローチによる栄養改善プログラムの計画、実施、管理のための知識と能力を習得する。

(11) 単元目標 :

1) 研修員は自国の栄養改善における課題を明確化できる。

2) 研修員は栄養不良とマルチセクター・アプローチの重要性について説明ができる。

3) 研修員は栄養課題に関する日本の取り組みについて説明ができる。

4) 研修員はマルチセクターで取り組む事例について説明ができる。

5) 研修員はJICAの行う栄養改善に対する協力について説明ができる。

6) 研修員はマルチセクター・アプローチを通じた栄養改善を実施・促進するためのアクションプランを策定する

## (12) 研修プログラム内容

本コースは、事前、本邦の2つのプログラムから構成される。ただし、2021年度については、世界的なCOVID-19の感染拡大の影響により、研修員の国を超えた移動が困難になっているため、オンラインを活用した遠隔研修を実施する。研修受託機関はその企画、運営方法について、JICA担当者と協議の上、実施に向けた調整を行うこととする。

各プログラムの主要研修項目は以下のとおり。

### 1) 事前プログラム

- ① 研修員（応募者）は所属組織の構成、栄養改善にかかる政策や国家戦略、栄養不良状況および課題についてインセプションレポートに取り纏める。
- ② 受入れが確定した研修員は来日後に予定されているインセプションレポート発表会に向けて発表資料を準備する。

### 2) 本邦（2021年度は遠隔）プログラム

研修員はマルチセクトラルな栄養改善の推進に向けて、各セクターから具体的な貢献を出すために必要な知識や活用可能なアイデアを習得し、それをもとにアクションプラン案を作成する。講義、討議、演習、視察等の主要内容は、以下のとおり。

- ① インセプションレポートにとりまとめられた各国の栄養不良状況とその解決策としてのマルチセクトラルな介入策をコース関係者間で討議し、研修参加者各国の栄養不良状況における課題分析および明確化を行なう。また、この内容を基にアクションプランを検討する。
- ② 研修員は栄養に関する基礎知識および栄養不良の現状（栄養不良の種類や傾向、国家・世帯・個人レベルの食料安全保障等）やそれを引き起こしている各々の原因を理解する。また、それらへの必要な対応策としての農業・農村開発による取り組みについて理解する。現場レベルでの Nutrition Focused Approach (NFA)、栄養素の需給バランスに応じた作物選定等のツール・手法を習得する。
- ③ 研修員は栄養改善に関する国際的な潮流と枠組みを理解し、農業、衛生、保健、教育等の分野で自国の栄養改善事業に必要な政策や取り組みを検討するための知識を習得する。また、栄養改善に向けたマルチセクターでの取り組みを念頭に、研修員の所属組織による栄養改善に係る政策・戦略・制度の整備などの行政能力の強化とコミュニティ・レベルによる住民自らが参加する活動など、行政およびコミュニティの双方の取り組みの必要性について理解する。
- ④ 栄養改善にかかる事例紹介や視察を通じて研修員が自国でマルチセクトラルな栄養改善を推進していくために必要な知識を修得する。内容には、日本の栄養改善の歴史と変遷、生活改善事業による栄養改善への取り組み、コミュニティ・レベルでの栄養改善の実践、ジェンダーに配慮した栄養改善、食料安全保障、食育推進基本計画の役割と課題、食育活動（農作業体

験等)、等が含まれる。

- ⑤ 現地調査：3日程度、研修員がそれぞれの国内で現状を認識し、現実的な対応策を検討するための調査を行う。南アジア地域の中央省庁職員は過栄養ないしカロリーベースでの栄養不足解消に意識が偏る傾向がみられるため、低栄養が課題となっている地域を訪問し、課題認識を正しく持つことを目的とする。
- ⑥ 研修で学んだ内容を踏まえて、各国の事情にあったマルチセクショナルな栄養改善のための具体策或いは事業案をアクションプラン案として取り纏め、発表する。マルチセクターで取り組む際に起こりうる障害も考慮して、アクションプランを作り込む。

全体としては、下記のプログラムを想定しており、これを基に遠隔研修用のスケジュールを提案すること。現在空欄（塗りつぶし部）となっているコマを集め、研修中盤に3日程度前述⑤現地調査に当ててを想定しているが、現地調査以外に課題認識を正しくもつための方策があればプロポーザルにて提案すること。その他、空いている時間があれば、適当な講義・演習等を提案すること。

日付	時刻	形態	研修内容	講師	単元
0	日		研修員来日		
1	午前		プログラムオリエンテーション	JICA 筑波 案件担当	
	午後		コースオリエンテーション、インセプションレポート最終化	委託先	1
2	午前	発表	インセプションレポート発表会	JICA 国際協力専門員	1
	午後	発表	インセプションレポート発表会		1
3	午前	講義	栄養不良の概念と枠組み	JICA 国際協力専門員(人間開発部)	2
	午後				
4	午前				
	午後				
5	午前	討議	単元2 振り返り	JICA 国際協力専門員、委託先	2
	午後	講義	日本における栄養改善の制度と取り組み	JICA 国際協力専門員(人間開発部)	3
6	土				
7	日				
8	午前	講義	栄養に配慮した日本の農業政策	JICA 国際協力専門員	3
	午後	講義	母子栄養と栄養改善	JICA 国際協力専門員(人間開発部)	3
		講義	感染症と公衆衛生に関する制度と取り組み	国立保健医療科学院、研究員	3
9	午前	講義	生活改善アプローチによる栄養改善と官の役割	玉川大学 准教授	3
	午後	講義	日本の学校給食	全国学校栄養士協議会	3
10	午前	講義	食育推進と省庁間連携	農林水産省	3
		講義	日本の栄養政策:健康日本21の推進と栄養政策の潮流	厚生労働省	3
	午後	講義	日本の食育実施に係る人材育成	女子栄養大学	3
11	午前	討議	単元3 振り返り	JICA 国際協力専門員、委託先	3
	午後	講義	栄養目標に対する農業・食品部門の貢献強化に向けた Nutrient-Focused Approach 総論	JICA 国際協力専門員	5
12	午前	演習	Nutrient-Focused Approach 演習	JICA 国際協力専門員、委託先	5
	午後	演習	Nutrient-Focused Approach 演習	JICA 国際協力専門員、委託先	5

13	土					
14	日					
15	月	午前	講義	生活改善事業による栄養改善の取り組みと分権化された行政の役割	元生活改良普及員	4
		午後	見学	地域レベルでの健康・栄養増進プログラム		4
16	火	午前	講義/見学	学校給食プログラム(学校訪問・給食サンプリング)		4
		午後	演習	地域レベルでの健康・栄養増進プログラム		4
17	水	午前	講義	ボランティアの現場職員によるコミュニティレベルの栄養改善活動		4
		午後	討議	現地視察振り返り	JICA 国際協力専門員、委託先	4
18	木	午前	講義	栄養の国際的潮流に対する JICA の協力	JICA 経済開発部、人間開発部、地球環境部	5
		午後	講義	栄養の国際的潮流に対する JICA の協力	JICA 経済開発部、人間開発部、地球環境部	5
		夕方		栄養改善に関する日本民間企業との意見交換	JICA 国際協力専門員	5
19	金	午前	討議	食習慣を変えるための効果的な介入	JICA 国際協力専門員	4
		午後				
20	土					
21	日					
22	月	午前	演習	Nutrient-Focused Approach 演習	JICA 国際協力専門員	5
		午後	討議	グッドプラクティスの共有	JICA 国際協力専門員、委託先	6
23	火	午前	演習	研修全体の振り返り	JICA 国際協力専門員、委託先	6
		午後				
24	水	午前	演習	アクションプラン作成準備	JICA 国際協力専門員、委託先	6
		午後	演習	アクションプラン作成準備	JICA 国際協力専門員、委託先	6
25	木	午前	発表	アクションプラン発表会	JICA 国際協力専門員	6
		午後	発表	アクションプラン発表会	JICA 国際協力専門員	6
26	金	午前	演習	アクションプラン最終化	JICA 国際協力専門員、委託先	6
		午後		評価会	JICA 筑波 案件担当	
27	土			閉講式		
				離日		

### (13) 研修実施方法

2021年度は、世界的なCOVID-19の感染拡大の影響により、オンラインを活用した遠隔研修とする。翌年度以降については情勢を確認し、来日を前提としつつ適切な研修方法（遠隔研修、本邦研修、遠隔・本邦併用研修）を協議の上決定する。

なお、遠隔研修においては、主として下記①②の手法を効果的に組み合わせ実施する。また、オンラインでの質問票や小テスト、学習内容レポート等、進捗管理や知見の共有をする方策も取り入れ、具体的手法をプロポーザルにて提案すること。

#### ① Web Based Training (以下「WBT」)

基礎的な理論や知識について、テキスト・レジュメ、視聴覚教材等の教材を準備の上、オンライン上にて研修員に共有し、各研修員が自国で自己学習を行う手法。

#### ② Webinar

オンライン会議ツールを活用し、WBTでの学習内容を補完したり、特定

のテーマを講演するオンラインセミナーを実施したりする。Webinarでは双方向のやり取りが可能となるため、WBTで実施困難な意見交換や質疑応答の時間を十分にとる。

- 1) 講義：テキスト・レジュメ、映像教材等を準備し、視聴覚教材を利用して、研修員の理解を高めるように工夫する。また、JICAの有する技術協力コンテンツ等の研修教材を積極的に活用しながら講義を進める。
- 2) 演習：講義との関連性を重視し、テキストを参照しながら講義で学んだ内容の確認と応用力を養えるように工夫し、帰国後の実務により役立つ内容とする。
- 3) 見学・研修旅行：講義で得られた知見をもとに、関係者との意見交換を通じて、事業実施において実践可能な知識・技術を習得できるように努める。
- 4) 討議：講義との関連性を重視し、テキストを参照しながら講義で学んだ内容の確認と応用力を養えるように工夫し、帰国後の実務により役立つことを目指す。そのために、活発な議論を導くことができるよう工夫する。
- 5) レポート作成・発表：以下に示す各レポートの作成・発表にあたっては、各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深め、研修員の帰国後の問題解決能力を高めるよう配慮し、あわせて帰国後に具体的な実践の取り組みが推進されるように努める。また、各レポートの狙いは以下の通り。

(a) インセプションレポート

自国の抱える栄養改善に関する課題と研修員の所属する組織、業務内容について、各研修員が来日前に分析・記述した報告書であり、本レポート作成を通じて、本邦プログラムの参加に向けての動機付け・問題意識の明確化を目指す。

(b) アクションプラン

本邦プログラム（2021年度は遠隔プログラム）で学んだ知識やノウハウの要点と自国での適用方法について取り纏めたものとする。アクションプランは帰国後に研修員の所属組織・関係機関において今後展開されるマルチセクショナルな栄養改善推進に向けた政策・戦略・制度の整備等やコミュニティ・レベルによる活動のアイデアとして活用されることが期待される。なお、本研修においては研修員個人単位ではなく、国単位でのアクションプランを作成する想定。各国・各地域でどのようにマルチセクショナルに連携しながら計画を実行できるかという視点をもって、様々な省庁からの参加者が協力して一つのアクションプラン作成に取り組む。

- 6) 研修付帯プログラム（JICA 側が主に実施するプログラム）

(a) プログラムオリエンテーション

技術研修の開始に際し、JICA事業の中の研修事業、コースの目的・日程・内容及び方法等につき、説明の上、周知徹底を図り、併せて研修員の要望等を徴取する。

(b) 評価会

研修の終了に際し、研修全般の効果を確認し、また今後の研修改善の参考資料とするため、研修員から研修の内容、その他について意見を聴取する。

(c) 閉講式

7) 他ドナー機関との連携

2022年度以降、世界銀行との連携により研修員の増員や「国際的な潮流」などの項目に関する講義が予定されている。研修内容の調整及び研修実施に関し発生する業務（「2. 業務の範囲及び内容」記載事項）を行うこと。

## 2. 業務の範囲及び内容

### (1) 研修実施全般に関する事項

- 1) 日程・研修カリキュラムの作成・調整
- 2) 研修実施に必要な経費の見積及び経費処理
- 3) 研修員選考会への出席
- 4) JICA 筑波その他関係機関との連絡・調整
- 5) 研修監理員との調整・確認
- 6) コースオリエンテーションの実施
- 7) 研修の実施・運営管理とモニタリング（遠隔研修の場合はウェブ又はメールベースを想定）
- 8) 研修員の技術レベルの把握（遠隔研修の場合はウェブ又はメールベースを想定）
- 9) 各種発表会の実施（研修員が作成した発表資料データの取り付け・管理と配布資料の印刷等を含む）
- 10) 研修員作成の各種レポートの分析・評価
- 11) 研修員からの技術的質問への回答
- 12) 単元目標・案件目標の達成度確認
- 13) 評価会への出席、実施補佐
- 14) 閉講式への出席、実施補佐
- 15) 反省会資料の作成、及び反省会への出席と議事録の作成
- 16) 講義、演習、見学の評価・分析
- 17) 一般来訪者の施設見学等、市民参加協力事業に関連した業務への協力
- 18) その他、国際協力理解、民間連携等 JICA 筑波が推進している業務への協力
- 19) JICA 筑波への講義テキスト・各種レポート等提出（原本及びデータ）

### (2) 講義、演習、討議の実施に関する事項

- 1) 講師・実習先の選定・確保
- 2) 講師への講義依頼文書等の発出
- 3) 講義室及び使用資機材の確認・手配
- 4) 講義テキスト、資機材、参考資料の準備・確認、アップロード（遠隔研修の場合）



- 合)
- 5) 講義動画の録画及び編集、ポータルサイト等へのアップロード（遠隔研修の場合）
  - 6) インターネットを活用した双方向型のコミュニケーション方法の検討、研修員への周知、補助（遠隔研修の場合）
  - 7) インターネット上のコミュニケーションツールを活用したワークショップ、演習等の検討、実施（遠隔研修の場合）
  - 8) 教材の複製や翻訳、研修動画の作成等二次的著作物についての適法利用の確認
  - 9) 講師からの原稿等の取り付け、配布等の調整、教材利用許諾範囲の確認および著作物利用承諾書取り付け
  - 10) 研修員からの著作物の利用条件同意書の取り付け
  - 11) 講義等実施時の講師への対応
  - 12) 講師謝金の支払い
  - 13) 講師への旅費及び交通費の支払い
  - 14) 講師（ないし所属先）への礼状の作成・送付
- (3) 見学（研修旅行）の実施に関する事項（遠隔研修の場合は視察動画作成）
- 1) 見学先の選定・確保と見学依頼文書あるいは同行依頼文書の作成・送付
  - 2) 見学先への引率
  - 3) 見学謝金等の支払い
  - 4) 見学先への礼状の作成と送付

以下は、上記（1）～（3）に加えて行う業務

(4) 事前準備/事前プログラムに関する事項

インセプションレポート内容の分析及び同レポート精度向上のための来日予定研修員への追加情報提供・追記依頼及び調整

(5) 事後整理に関する事項

- 1) JICA 筑波、他関係機関との連絡・調整
- 2) 研修実施結果の評価・分析と改善策の検討
- 3) 業務完了報告書（教材の著作権処理結果含む）及び経費精算報告書の作成

### 3. 本業務に係る報告書の提出

本業務の報告書として、2021 年度分実施においては、本コースに関する事項をもれなく記載した業務完了報告書、経費精算報告書を各 1 部ずつ 2022 年 1 月 31 日（月）（予定）までに提出する。

### 4. その他

- (1) JICA 筑波は、研修実施の運営にかかる通訳等の支援業務、ならびに教材・テキストの翻訳・製本、或いは研修員等の研修旅行の手配については、原則、機構或いは機構が指定する業者を通じて別途行う。したがって、研修実施にあたっては、本業務

受託者は必要に応じ、これら関連する団体等との調整を行うものとする。

- (2) 映像教材の作成は受託者（再委託可）とする。その費用は見積に含めること。再委託の場合は遠隔研修経費に積算し、業務従事者が行う場合は業務人件費に積算すること。他方、映像教材の作成は JICA 筑波が指定する業者を通じて別途行うことも可能である。その場合の動画教材作成費用は見積計上不要とし、法人等は JICA 筑波が指定する業者との調整を行うものとする。
- (3) 本業務概要は予定段階のものであり、詳細について変更される可能性がある。
- (4) 本業務は 2021 年度～2023 年度までに実施する計 5 回の研修コース全体を対象とする。ただし、契約は年度毎に締結するものとし、2022 年度、2023 年度契約については、発注者・受注者で契約条件等につき協議のうえ、締結する。

以上

提出日： 年 月 日

## 誓 約 書

独立行政法人 国際協力機構  
筑波センター  
契約担当役 殿

202X-202X 年度課題別研修「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」コースの実施に係る競争参加資格の確認を受けるに際し、以下に記載の事項について誓約します。

なお、当該記載事項に係る誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、競争参加資格が無効となることに同意します。

住 所  
法 人 名  
法 人 番 号  
役 職 名  
代 表 者 氏 名

役職印

### 1 反社会的勢力の排除

競争から反社会的勢力を排除するため、以下のいずれにも該当しないこと。

- ア. 競争参加者又は役員等（実施団体が個人である場合にはその者を、実施団体が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。）が、暴力団、暴力団員（暴力団員ではなくなったときから5年を経過していない者を含む。）、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等（各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程（総）第25号）に規定するところにより、これらに準ずるもの又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 反社会的勢力が競争参加者の経営に実質的に関与している。
- ウ. 競争参加者又はその役員等が自己、競争参加者若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- エ. 競争参加者又はその役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、若しくは便宜を供与するなど直接的又は積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、又は関与している。
- オ. 競争参加者又はその役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- カ. 競争参加者又はその役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- キ. その他競争参加者が、東京都暴力団排除条例（平成23年東京都条例第54号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

### 2 個人情報及び特定個人情報等の保護

社として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び

「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成26年12月11日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等（※1）を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

（中小規模事業者（※2）については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。）

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

（※1）特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

（※2）「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野）の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

以 上